

世界農業遺産（GIAHS）及び家族農業に関する 国際シンポジウム2023結果概要

1. 日 時：令和5年11月27-29日（月-水）14:00～17:30
2. 場 所：ホテルグランドニッコー東京台場（オンライン併用）
3. 参 加 者：国内外のGIAHS専門家、農村開発専門家、GIAHS認定地域関係者、FAO事務局関係者等。農林水産省からは、山口輸出・国際局審議官が出席し、開会の挨拶を行いました。

4. 概 要：

家族農家は、農業生産、農業生物多様性や生物多様性、伝統的知識、文化、景観等のGIAHS認定地の特徴を守る上で、農地、水、森林、生態系等の農業資源の管理者として重要な役割を果たしています。本シンポジウムでは、GIAHS認定地の家族農家と農村地域社会がどのような農村開発手法を講じれば、効果的な保全を実現できるかについて検討することを目的として実施されました。

(1) セッション

- ・ 包括的な農村地域開発のための効果的な手法
- ・ GIAHS認定地における効果的な諸活動
- ・ GIAHS認定地における包括的な農村開発を達成するための効果的な活動と家族農家の役割

(2) 登壇者及び参加者からは、以下のコメント・意見がありました。

- ・ 社会的な変化（気候、経済だけでなく世代による価値観の違いを含む）を的確にとらえた対策を講じることが重要。例えば、日本の農村の60代以上は長男が家を継ぐものという義務感があり、その少し下の世代では義務感が薄れ、更にその下の若い世代では新たな価値を求めて農村にやってくる。
- ・ 都市住民を呼び込み、農業・農村の活動に継続的に関わりを持ってもらうことで、地域を活性化させることは今後ますます重要。
- ・ 国境を越えて類似した事例・取組を繋げるネットワーキング促進が重要。
- ・ GIAHSの恩恵を家族農業単位に行き渡らせるには様々な段階で仕掛けが必要。まずは実態を調査し、どのような人がどれほど地域の保全に貢献しているか理解すべき。

以上

【登壇者】

遠藤 芳英	FAO 世界農業遺産コーディネーター
日比 絵里子	FAO 駐日連絡事務所長
ステファニー・デブック	FAO ESP 農村雇用チーム
ホセ・エンリケ・ガルシラソ	OECD 企業者中小企業・地域・都市センター地域・農村政策ユニット長
リチャード・ウェイクフォード	元 OECD 農村作業部会議長
ヴィタリアーノ・フィオリッロ	ボッコーニ大学経営技術学部教授（イタリア）
ジョルジア・デ・パスクアーレ	ローマ・トレ大学建築学部（イタリア）
オノラト・ロイグ・ティエルノ	バレンシア工科大学応用経済学科（スペイン）
筒井 和信	鳥取大学地域学部教授
脇田 健一	龍谷大学社会学部教授
内藤 直樹	徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授
北野 真帆	京都大学大学院
山本 亮	株式会社 百笑の暮らし代表取締役
広田 純一	いわて地域づくり支援センター代表理事
山口 博之	農林水産省輸出・国際局審議官
長田 恵理子	農林水産省農村振興局農村政策部農村計画課 農村政策推進室長
中村 弘和	石川県農林水産部里山振興室長
小川 一記	滋賀県農政課長